

## スポーツニュースとインターネットのコメントとの関係 —高校野球の球数制限を事例として—

河野 洋

福山平成大学 福祉健康学部  
(健康スポーツ科学科)

E-mail : kohno@heisei-u.ac.jp

### 【要旨】

本研究の目的は、スポーツニュースに対するインターネット上のコメントに、ニュースの記事内容が与える影響を明らかにすることであった。本研究では高校野球の球数制限導入に関する話題をテーマに設定し、ニュース記事が球数制限を支持したり批判したりすることによって、球数制限への賛成コメント・反対コメントに影響があるかどうかを検証した。

調査では、スポーツ総合サイト「スポーツナビ」より球数制限に言及のあるニュースを収集し、その内容によって球数制限に対する「ポジティブ」な記事と「ニュートラル」な記事とに分類した。また、ニュースに対するユーザのコメントを収集し、コーディング作業によって球数制限に対する賛成意見・反対意見を整理した。その後、作成されたコードの出現率を算出した上で、ニュースがポジティブかニュートラルによってコードの出現率に違いがみられるかどうかカイ二乗検定を行った。

調査の結果、球数制限に関するコメントから「賛成：怪我の防止」「反対：不公平」など賛成・反対の意思を示す9つのコードが作成された。そのうち「反対：プレーの変容」または「反対：不公平」のコードを含むコメントについて、ニュースの記事内容によって投稿が抑制されたり誘発されたりしていることが明らかとされた。それ以外のコードを含むコメントについては、記事内容に影響されず一定の割合で投稿されていたことが示された。

KEY WORDS : スポーツニュース、インターネットコメント、球数制限

## 1. 緒言

### 1.(1) 研究背景

今日の社会生活の中で、インターネット上の情報に接することは不可欠といっても過言ではない。マイボイスコム<sup>1)</sup>の調査ではニュースの情報を得る手段として、「テレビ番組」に次いで「ヤフーなどポータルサイトのニュースサイト・アプリ」が挙げられており、インターネット上の情報を信頼できるものとする人々の存在が認められる<sup>1)</sup>。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用者数も年々増加しており、そこで発信される情報は人々の共感を生み出し、考え方や行動に一層の影響を持つようになってきている<sup>2)</sup>。

一方で、インターネット上の情報の信頼性やそのような情報に触れることへのリスクに対する関心は、必ずしも向上しているとはいえない。インターネットへの依存が強まる中、報酬をもらってインターネット上に商品に関する好意的な投稿をする「やらせレビュー」がテレビで報じられ話題となった<sup>3)</sup>。また、インターネット上のデマやフェイクニュースに起因する「炎上」現象が、現実の社会生活を脅かす事態にまで発展するような出来事が多々起こっている。我々がインターネットの情報に基づき行動を起こすことがあるのであれば、その情報や周囲の意見がどのようなものであるかについては特に関心を持たなければならないことである。

研究活動において、インターネット上でみられる人々の意見や考え方は「ネット世論」という言葉で関心の対象とされてきた。初期の研究においてネット世論は「世論のようで世論でない」性格を強調され、いわゆる世論調査の結果との差異が主な関心とされた。遠藤は2009年に実施された朝日新聞および動画配信サービス「ニコニコ動画」の内閣世論調査の結果を比較し、両者に「一見してかなりの隔たりがある」としている<sup>4)</sup>。一方、最近の研究ではネット世論の中身よりも、ネット世論が生じるメカニズムに焦点を当てるものが増えてきている。その中のひとつとして、木村はネット世論が形成されるメカニズムを自身の研究成果から整理し図示している<sup>5)</sup>。ここでは、ネット世論が現実社会から断絶されたものではなく、マスメディアを起点とした人々の情報受信・情報発信のプロセスの一部として組み込まれている。この認識は、インターネット上の情報や意見が人々に影響を及ぼす今日の社会の状況に合致するものと考えられる。

木村が模式化したネット世論の構造は、ネット世論研

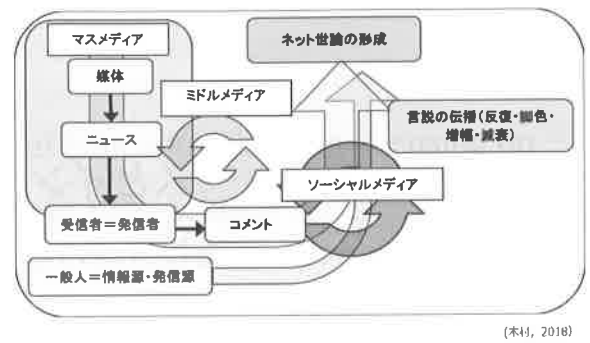


図1 日本社会におけるネット世論の構造

究の関心の所在がどこにあるかを整理する上で有用である。先述した遠藤の研究をはじめ、従来の研究の関心はネット世論自体がどのような特徴や傾向を持つかにあったが、最近の研究ではネット世論形成のプロセスとして、インターネット上に書き込まれるコメントに関心が集まっている。この関心は口コミに関する研究からインターネット上のレイシズムに関する研究、政治からスポーツまで多岐に渡る<sup>6)7)8)</sup>。また、コメントを投稿するユーザの属性やそれらのユーザが関心を持つニュースジャンルに焦点を当てた報告もある<sup>9)</sup>。我々が日々接しているインターネットの情報やインターネット上の意見を適切に理解するために、図1にあるそれぞれのメカニズムについて明らかにしていくことが今日のネット世論研究の課題といえる。

### 1.(2) 研究の目的

本研究は図1にあるネット世論の形成における「ニュース」と「コメント」との関係に焦点を当てることとした。河野・北村は2014年のFIFAワールドカップブラジル大会の期間中、インターネット上でクロアチア人に対する差別的なコメントがみられたことを報告している<sup>6)</sup>。河野・北村はそれらのコメントが生じた理由として、クロアチア代表の試合で日本人審判が下した判定に当チームが批判の声を上げた出来事を挙げているが、その出来事がインターネット上でどのようなニュース記事となって報じられたかについては言及していない。しかし、この件を報じる際に事実を中立的立場から伝える記事と、日本人審判またはクロアチア代表のいずれかを擁護し他方を批判する記事とでは、ニュースに対するコメントに違いが生じることが予見される。つまり、あるニュースが肯定的に、あるいは否定的に報じられることによって、コメントの傾向やネット世論の形成になんらかの影響を与えることが考えられる。よって、インター

ネットにおけるニュースの記事内容とコメントとの関係については検証される必要がある。

以上を踏まえ、本研究はスポーツニュースに対するインターネット上のコメントに、ニュースの記事内容がどのような影響を与えるかについて明らかにすることを目的とした。なお、本研究では近年議論となっている高校野球の球数制限導入に関する話題をテーマに設定した。当該テーマは指導現場やマスメディア等でも賛否が挙げられており、二項対立的な意見・主張の間でニュース記事の影響を捉えやすいと考えられたため設定した。その上で、本研究では調査として、球数制限に賛成するニュース記事または反対するニュース記事が、賛成および反対のコメントの割合に与える影響を検証することとした。

### 1.(3) 用語の定義

本研究において「球数制限」とは、日本の高校野球における球数制限導入の議論を指す。球数制限は海外や国際大会ですでに導入されている例があるが、本研究では日本の高校野球以外の話題や一般論としての球数制限については扱わない。

## 2. 方法

### 2.(1) データの収集

本研究の調査にあたって、はじめに球数制限に関するインターネット上のコメントをデータとして収集した。スポーツ総合サイト「スポーツナビ」(<https://sports.yahoo.co.jp/news/list>)で、「高校野球 球数」をキーワードにニュースを検索し、ヒットした記事をテキストデータとして収集した。その際、スポーツナビには一般ユーザがニュースに対するコメントを投稿できる機能があるため、ニュースと合わせてそれらのコメントも収集した。ニュースの検索は2019年9月に行い、ヒットした記事を過去にさかのぼってすべて収集した。

### 2.(2) 分析用データの選別

収集されたニュースおよびコメントについては、調査の意図に基づき分析を行うデータの選別を行った。はじめに、収集された全コメントから「球数制限」「投球制限」「投球数制限」のいずれかを含むものを抽出した。続いて、収集された全ニュースから、上記のコメントが1件以上投稿されているものを選別した。以上の作業によって、選別・抽出されたニュースおよびコメントから

なる分析用データセットが作成された。

### 2.(3) ニュースおよびコメント内容の精査

データセットのニュースについて、記事内容による分類を行った。調査の意図に基づき、ニュースを1) 球数制限を支持したり、球数制限の必要性を主張する「ポジティブ」な内容の記事、2) 球数制限のデメリットや反対の声に言及する「ネガティブ」な内容の記事、3) 球数制限に慎重であったり、結論を明言しない「ニュートラル」な内容の記事に分類した。

データセットのコメントについては、コーダー1名が内容を精査しコーディングを行った。コードはコメントが球数制限に対し「賛成」「反対」のどちらの立場であるかが明確になるように作成した。コーディングの際には、コメントの内容が推測できるよう各コードの特徴語を定義した。

### 2.(4) データの集計および分析

コーディングの後、データの集計を行った。コメントは作成されたコード毎に集計し、コードの出現コメント数および出現率を算出した。

また、作成されたコードについては「共起ネットワーク」によってコード間の関係を示した。共起ネットワークとは、ひとつのコメント中に複数のコードが出現する「共起関係」を図示したものである。共起ネットワークの描写には、テキストマイニング（計量テキスト分析）のソフトウェアである「KH Coder」(<https://kncoder.net/>)を使用した。

また、ニュースの分類（ポジティブ／ネガティブ／ニュートラル）によってコード毎の出現コメント数および出現率をクロス集計した。その後、ニュースの記事内容によってコードの出現率に差異がみられるかを検証するため、カイ二乗検定を行った。

## 3. 結果

### 3.(1) 分析用データセットの内訳

本研究の調査で行ったデータ収集の結果、135件のニュースと16,891件のコメントが収集された。その

表1 データ収集結果および分析用データセットの内訳

	データ収集結果	分析用データセット
ニュース	135	69
コメント	16,891	1,373

後、データの選別を行った結果、69件のニュースと1,373件のコメントからなる分析用データセットが作成された。

### 3.(2) ニュースの分類結果

データセットのニュースを記事内容によって分類した結果、球数制限にポジティブな記事が23件、ニュートラルな記事が46件となった。今回の調査で、球数制限にネガティブな記事はみられなかった。

ポジティブな記事としては、専門家のインタビューや球数制限に向けた動向を掲載し、球数制限の意義や必要性を述べるものが多くみられた。ニュートラルな記事では球数制限に反対している人々がいることや、過去の高校球児のインタビューなどが掲載されていたが、記事の結論としては賛否を断言しないものが多くみられた。

### 3.(3) コメントのコーディング

データセットのコメントのコーディングを行った結果、9つのコードが作成された。

第1コードは「賛成」である。球数制限に賛成する意思を端的に示したもので、「賛成」の語を含むコメントが該当した。

第2コードは「賛成：怪我の防止」である。高校生の怪我やスポーツ障害の防止につながる理由で球数制限に賛成する意思を示したもので、「故障」「肘」「医学」などの語を含むコメントが該当した。

第3コードは「賛成：将来のため」である。高校生の将来の野球人生を守る理由で球数制限に賛成する意思を示したもので、「将来」の語を含むコメントが該当した。

第4コードは「賛成：エゴイズム否定」である。球数制限に賛成した上で、それが実現されないことに対し高校生に関わる大人や高校野球の利害関係者を否定するもので、「エゴ」「大人」「勝利至上主義」などの語を含むコメントが該当した。

第5コードは「反対」である。球数制限に反対する意思を端的に示したもので、「反対」の語を含むコメントが該当した。

第6コードは「反対：プレーの変容」である。野球のプレーや作戦、試合進行にネガティブな変化が起きる恐れがある理由で球数制限に反対する意思を示したもので、「ファール」「カット」の語を含むコメントが該当した。

第7コードは「反対：別案で解決」である。球数制限に賛成する意見に理解を示した上で、別の方法による問題解決を図ろうとするもので、「日程」「イニング」「ベンチ」などの語を含むコメントが該当した。

第8コードは「反対：甲子園重視」である。高校生にとって特別なものである甲子園の価値を貶める恐れがある理由で球数制限に反対する意思を示したもので、「球児」の語を含むコメントが該当した。

第9コードは「反対：不公平」である。高校間に勝敗

表2 ニュースタイトル (一部抜粋)

分類	記事タイトル	掲載元	掲載日
ポジティブ	高校野球、投球制限望ましい スポーツの鈴木長官が支持	共同通信	2019/2/4
	WBCで一般的に知られるようになった「球数制限」縮まってきた日米の意識の差	Full-Count	2019/3/25
	「エンジョイ・ベースボール」の慶應義塾高校元監督に球数制限について聞いてみた (後編)	ベースボールキング	2019/7/16
	桑田真澄氏、高校野球の“改革”訴える「ルール作りができないのは大人の都合」	Full-Count	2019/8/13
	年間手術件数は200件「球数制限はせざるを得ない状況になって」古島弘三医師が球数制限問題を語る	高校野球ドットコム	2019/8/13
	ニュートラル	第91回センバツを前に／1 球数制限、監督75%「反対」 これからの少年野球のあり方は？ 練習時間短縮、球数制限、指導者の怒声禁止…堺BBの進める改革	センバツLIVE！ Full-Count
	球数制限を考える 異なる事情、思い交錯 指導者…	公立、私学、選手、カナロコ by 神奈川新聞	2019/7/20
	【あの夏の記憶】「甲子園は人を変える」—814球を投げた三重高左腕の今 球数に宿る高校球児の思い	Full-Count	2019/7/24
	変わりゆく高校野球 令和の始まりは絶対エース時代の終わりなのか——	スポニチアネックス	2019/8/20

に関わる不公平が生じる恐れがある理由で球数制限に反対する意思を示したもので、「強豪」「私立」「有利」などの語を含むコメントが該当した。

表3 コーディングコートと特徴語

コード	特徴語
賛成	賛成
賛成：怪我の防止	故障、肩、怪我、リスク、肘、肩肘、ケガ、酷使、医学、健康
賛成：将来のため	将来
賛成：エゴイズム否定	エゴ、大人、商業主義、勝利至上主義
反対	反対
反対：プレーの変容	ファール、カット
反対：別案で解決	日程、間隔、イニング、回、ベンチ
反対：甲子園重視	球児
反対：不公平	強豪、公立、私立、有利、不利

### 3.(4) コード毎のコメント集計

作成されたコード毎にコメントを集計した結果、最も出現率が高かったのは「反対：別案で解決」のコードで、28.77パーセントだった。続けて「賛成：怪我の防止」（23.23%）、「反対：不公平」（19.74%）の順に出現率が高かった。

また、賛成の意思を示す全てのコードの出現率は34.09パーセント、反対の意思を示す全てのコードの出現率は53.82パーセントだった。

表4 コードの出現コメント数および出現率

コード	出現コメント数	出現率
賛成	60	4.37%
賛成：怪我の防止	319	23.23%
賛成：将来のため	68	4.95%
賛成：エゴイズム否定	98	7.14%
反対	77	5.61%
反対：プレーの変容	122	8.89%
反対：別案で解決	395	28.77%
反対：甲子園重視	106	7.72%
反対：不公平	271	19.74%
【全コード】 賛成	468	34.09%
【全コード】 反対	739	53.82%
(コード無し)	417	30.37%

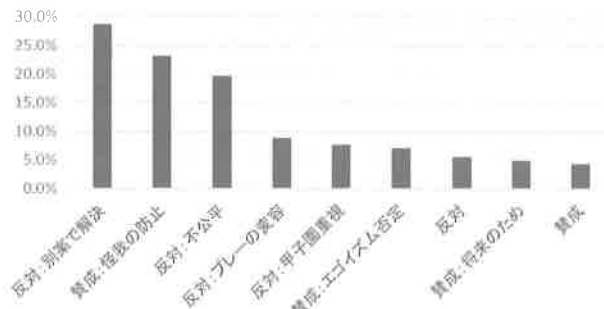


図2 コードの出現率

### 3.(5) コードの共起ネットワーク

作成されたコードについて、コード間の共起関係を図3の共起ネットワークで示した。

共起ネットワークは「ノード」と「エッジ」によって図示される。図中に円で示されているのがノードで、ノードを繋ぐ線がエッジになる。エッジはノード間の共起関係の強さを示しており、エッジのないノード間は共起関係がないか弱く、点線から実線になるほど共起関係が強くなることを意味する。また、共起ネットワークの解釈の際に「サブグラフ」に着目する場合がある。サブグラフは共起関係の強いエッジで繋がれたノードのグループを指し、本研究のような人々のオピニオンに関する調査で複数のサブグラフが検出される場合は、テーマをめぐる異なる論点やコミュニケーションが存在していると解釈することができる。

図3の共起ネットワークからは、ふたつのサブグラフが検出された。サブグラフ1は「賛成」「反対」「反対：甲子園重視」「賛成：エゴイズム否定」「賛成：将来のため」のコードからなり、サブグラフ2は「反対：不公平」「反対：別案で解決」「賛成：怪我の防止」のコードからなる。

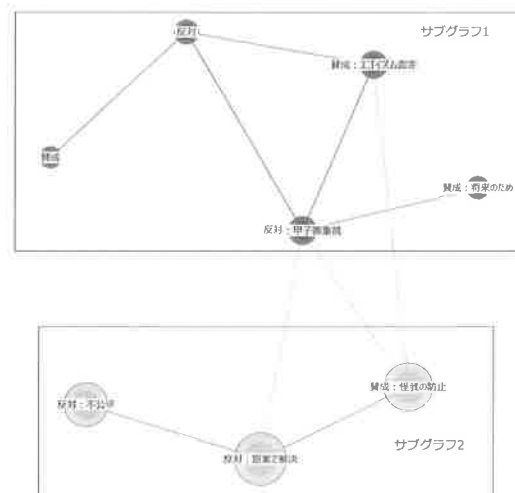


図3 コードの共起ネットワーク

### 3.(6) ニュースの内容とコメントの傾向

データセットのニュースをポジティブな記事とニュートラルな記事とに分類し、コード毎の出現コメント数および出現率を再集計した。その結果、ポジティブ・ニュートラルともに最も出現率が高かったコードは「反対：別案で解決」であり、続けて「賛成：怪我の防止」、「反対：不公平」の順に出現率が高かった。

集計結果に対してカイ二乗検定を行った結果、「反対：プレーの変容」のコードがニュートラルな記事で有意に高い割合で出現した。また、「反対：不公平」のコードがポジティブな記事で有意に高い割合で出現した。

### 4. 考察

#### 4.(1) 球数制限に関するコメントの全体像

本研究の関心はインターネット上で報じられるスポーツニュースの記事内容が、そのニュースに対するユーザのコメントにどのような影響を与えるかにある。その上で、はじめに今回の調査結果から、球数制限に関するコメントの全体像を整理する。本研究の調査では球数制限に対する意思表示となる9つのコードが作成された。また、「反対：プレーの変容」を除く8つのコードは他のコードと一定の共起関係を持ち、全体としてふたつのサブグラフが認められている。

サブグラフ1は「反対：甲子園重視」に対し、「賛成：エゴイズム否定」と「賛成：将来のため」がそれぞれ強い共起関係を持っている。その際、賛成の意思を示

表5 コードの出現コメント数および出現率（ニュースの分類毎）

コード	ポジティブ		ニュートラル		カイ2乗値
	出現コメント数	出現率	出現コメント数	出現率	
賛成	40	4.73%	20	3.80%	0.472
賛成：怪我の防止	204	24.11%	115	21.82%	0.832
賛成：将来のため	35	4.14%	33	6.26%	2.679
賛成：エゴイズム否定	68	8.04%	30	5.69%	2.352
反対	50	5.91%	27	5.12%	0.246
反対：プレーの変容	55	6.50%	67	12.71%	14.721 **
反対：別案で解決	250	29.55%	145	27.51%	0.562
反対：甲子園重視	65	7.68%	41	7.78%	0.000
反対：不公平	195	23.05%	76	14.42%	14.720 **

\*\*: $p < 0.01$

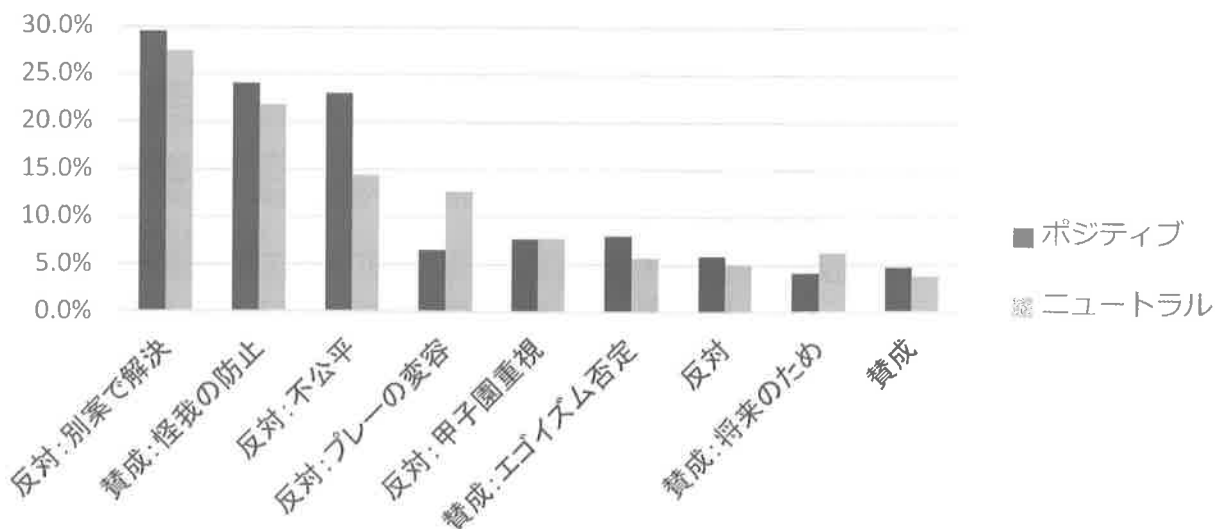


図4 コードの出現率（ニュースの分類毎）

すコードと反対の意思を示すコードとの共起関係は、ふたつのコードが対立する関係にあると解釈することができる。よって、サブグラフ1からは球数制限に関するふたつの意見の対立が認められる。「反対：甲子園重視」と「賛成：エゴイズム否定」は、甲子園を球児の夢として特別扱いする人と、大人の都合で子どもが見世物にされている場だと考える人との対立として認識される。また「反対：甲子園重視」と「賛成：将来のため」は、高校生の「今」と「将来」のどちらが大切であるかで対立しているといえる。これらの対立関係を含め、サブグラフ1は球数制限や高校野球に関する主観的・感情的なやりとりとして評価される。サブグラフ1には「賛成」および「反対」のコードが含まれているが、これらは理由を示さず「なんとなく賛成」「誰が何と言おうと絶対に反対」などと述べるコメントとなっている。

サブグラフ2は「反対：不公平」と「賛成：怪我の防止」を「反対：別案で解決」が繋ぐような関係となっている。サブグラフ1で共起関係の強い賛成／反対のコードは対立関係だとしたが、「反対：別案で解決」は必ずしも「賛成：怪我の防止」と対立しない。「反対：別案で解決」は球数制限の意義や必要性に理解を示しつつ、同様の効果が挙げられるのであれば別の方法を取ろうとする意見である。よってサブグラフ2は、高校生の怪我の防止と球数制限によって生じる不公平を同時に解決する「別案」を考えるやりとりとして評価される。ここではサブグラフ1に比べ、論点を明確にした建設的なコミュニケーションがなされているといえる。

サブグラフ1とサブグラフ2はコメントの質だけでなく、量の面でも違いがみられた。今回の調査で出現率の

高かった「反対：別案で解決」「賛成：怪我の防止」「反対：不公平」のコードは、いずれもサブグラフ2に含まれた。よって、これらのコードが多く出現したことから、サブグラフ2のコミュニケーション全体が活発に行われているインターネットの様子を推察することができる。インターネットにおけるコメントの質的・量的な評価は別稿に譲るが、ひとつのコメントがスポーツや社会全体に影響を及ぼし得る今日において、そういったコメントが生じるメカニズムについては明らかにされていく必要がある。

#### 4.(2) コメントに対するニュース記事の影響

コメントを分類する各コードの出現率を、球数制限にポジティブな記事へのコメントとニュートラルな記事へのコメントとに分けて再計算した結果、9つのコードのうち2つで有意な差が認められた。この結果は、一部のコードを含むコメントの投稿がニュースの記事内容に影響を受けたことを意味するものと考えられる。

「反対：プレーの変容」は、ニュートラルな記事でより高い割合で出現した。このコードに分類されたコメントは、球数制限によりわざとファールを打って相手ピッチャーの投球数を増やす行為が行われる可能性に言及するものとなっている。ただし、それらのコメントが球数制限に反対する理由は球数稼ぎのような行為によって「野球がつまらなくなる」ためだとしており、怪我の防止や公平性の担保といった共起ネットワークで導出された論点とは異なる。今回の調査で、球数制限にポジティブな記事は特に選手の怪我の防止を挙げ、導入の是非に関する論点を明示するものが多かった。そのため、

表6 各サブグラフのコメント（一部抜粋）

サブグラフ1	「野球が面白くなくなるから球数制限すべきではない」とか「強豪校が有利になる」とか第3者的な意見がいかにか大人の自分中心の意見かがわかる。球児は大人のオモチャではない。（賛成：エゴイズム否定）
	甲子園は高校野球のためにできた球場。高校球児の聖地でいいと思う。球数制限や日程延長するには無理があるようですね。ただ、大人は子供で商業しちゃだめだよ。（反対：甲子園重視）
	将来、野球をする予定のない、甲子園が目標の球児に球数制限は必要か？って話だろ。甲子園を目標としないなら高校野球に出てこなくて良いだろ。（反対：甲子園重視）
	投球数制限は投手の将来、人生設計を考えると、大人が決めてあげなくてはならないと思う。高校球児は、腕が壊れても投げたい。と完全燃焼したいとか。それは、その時はそう思ったりもする。（賛成：将来のため）
サブグラフ2	全員が中4日守れるような日程調整ははっきり言ってムリ。（ムリじゃなくても10年かかる）結局今すぐできるのは球数制限。制度として万全じゃないかもしれないが導入によって間違いなく子供の肩肘は救われる。（賛成：怪我の防止）
	他のスポーツは年齢に応じて試合時間を変えているので、高校野球は7回で終わりで良いと思っています。球数制限だと控えの投手も必要で、部員の少ないチームは不利になります。（反対：別案で解決）
	成長過程の身体への負担は後に出てくる 球数制限では無く投球間隔とイニング制限 高校生なら7イニングで中3日は開ける様に大人が調整すれば良い（反対：別案で解決）
	もっと気候が良くなって行うことや過密日程の是正のほうが子供たちの為になると思う。球数制限なんてしたら今以上に有名な私立高校しか勝たなくなる。（反対：不公平）

野球の面白さ／つまらなさという「場違い」なコメントが控えられた可能性がある。だとすれば、今回の結果はニュートラルな記事がコメントを「誘発」したというよりも、論点を示されず何を言ってもよい雰囲気の中で、個人の嗜好に関する投稿が許容されたものとみることができる。

「反対：不公平」は、ポジティブな記事でより高い割合で出現した。つまり、この結果は球数制限に賛成する記事によって、球数制限に反対するコメントが誘発されたことを示している。先述の通り、今回の調査でみられたポジティブな記事の多くは、医学的根拠により怪我防止の点から球数制限を支持する内容であった。一方で、それらの記事は球数制限が学校間に不公平を生じさせる可能性のあることには言及していない。そのため、一方の立場から球数制限を支持する記事に対し、反論としてのコメントが投稿されたものと考えられる。ただし、このようなコメントの存在については、ネット世論の性格のひとつとして挙げられる「マスメディア批判」や「権力批判」に繋がるものとして認識することもできる。今回の調査において、球数制限に対するネガティブな内容の記事は認められなかった。これには、選手の怪我という重大な問題を前に、球数制限に反対する記事を出しづらい状況があると推察される。しかし、このような状況がユーザの意に反するものであったとき、球数制限というテーマを超えて「マスメディア 対 インターネット」という関係が顕在化するものと考えられる。この議論はあくまでも推論であり今後検証される必要があるが、マスメディアが報じるすべてにインターネットユーザが反論しているわけでないことを考えれば、どのようなニュース記事がユーザに受け入れられ、どのような記事が反論を誘発するのかは今後の関心のひとつとなる。

その他の7つのコードについてはニュースの記事内容に関わらず、球数制限に関するコメントに一定の割合で出現した。本研究においては、これらのコードはニュースの記事内容に影響を受けなかったと結論付けられる。ただし、上記の2つのコードと異なり、これらのコードがなぜ記事内容の影響を受けなかったのかについては、今後検討される必要がある。今回の結果の範囲でいえば、サブグラフ1のコードには記事内容の影響が認められていない。また、球数制限に賛成の意思を示すコードにも記事内容による出現率の違いはみられなかったが、いずれも原因を突き止められるほどの知見ではない。しかし、怪我の防止を訴える記事が球数制限を支持する

ネット世論の盛り上がりにはほとんど寄与していなかった事実は、スポーツに関するネット世論の形成を考える上で関心のひとつとなる。

## 5. まとめ

本研究の目的は、スポーツニュースに対するインターネット上のコメントに、ニュースの記事内容が与える影響を明らかにすることであった。本研究では高校野球の球数制限に関する話題をテーマに設定し、球数制限にポジティブなニュース記事とニュートラルな記事とで、投稿されるコメントの傾向に違いがあるかどうかをデータによって実証した。調査の結果からは、インターネット上のコメントに球数制限に賛成する意見、反対する意見の双方が認められ、それらのコメントはいくつかの論点によって対立あるいは補完するような関係にあった。その上で、本研究では球数制限に関する一部のコメントがニュースの記事内容によって抑制されたり誘発されたりすることが明らかとなった。また、記事内容に影響されず一定の割合で投稿されるコメントの存在も明らかとされた。

本研究は球数制限という特定のテーマを扱ったものであり、スポーツニュースとインターネット上のコメントに関する本研究の成果は限定的なものである。また、スポーツナビはいわゆる電子掲示板型のサービスであり、今日の主流のひとつであるSNSとはコミュニケーションの形態が異なる。電子掲示板では最初にテーマ（本研究でいえばニュース）が与えられ、そのテーマに関心のあるユーザによって後から集団が形成される。電子掲示板は比較的匿名性が高く、テーマに対して各々意見を持つユーザが集まるため、今回のように賛成・反対双方の意見や対立構造が生じやすいといえる。一方、SNSは原則として先に集団（ソーシャル・ネットワーク）があり、そこでのコミュニケーションは集団を維持するための手段的側面を持つ。そのため、SNSでは今回みられたような議論を回避し、賛成・反対いずれかの意見を集団で共有するためのやりとりがなされている可能性がある。いずれにしても、本研究の成果を還元できるのはインターネット空間においても限定的な範囲となる。

今回の調査において、球数制限を支持する記事が賛成のコメント増加に寄与せず、むしろ球数制限に反対するコメントを誘発した結果については、今後の研究における関心のひとつとなる。ネット世論形成のプロセスの中で、どのようなニュース記事がインターネットに受け入



られ、どのような記事が抵抗に合うのか、今日のスポーツを取り巻く様々な事例について検証し、知見を蓄積することが必要であると考えます。

#### 参考文献

- 1) マイボイスコム. 【新聞の利用】に関するアンケート調査（第6回）, <https://www.myvoice.co.jp/biz/surveys/24408/index.html>, 2018. (accessed 2019-09-24)
- 2) ICT総研. 2018年度 SNS利用動向に関する調査, <https://ictr.co.jp/report/20181218.html>, 2018. (accessed 2019-10-27)
- 3) NHK. 追跡！ ネット通販 やらせレビュー, <https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4335/>, 2019. (accessed 2019-10-27)
- 4) 遠藤薫. 「ネット世論」という曖昧：<世論>,<小公衆圏>,<間メディア性>, マス・コミュニケーション研究, 77, 105-126, 2010.
- 5) 木村忠正. 「ネット世論」研究から見る「ハイブリッド・エスノグラフィー」の必要性, マス・コミュニケーション研究, 93, 43-60, 2018.
- 6) 河野洋・北村薫. スポーツの国際大会とウェブ上のレイシズム：2014FIFAワールドカップブラジルに関する日本のウェブコメントに着目して, スポーツ産業学研究, 27(2), 149-162, 2017.
- 7) 劉亜菲. 中国ネット世論形成における「党・政府主導型オピニオンリーダー」の発信行動と役割：「@人民日報」を例として, 国際広報メディア・観光学ジャーナル, 22, 37-55, 2016.
- 8) 高史明. 日本語Twitterユーザーのコリアンについての言説の計量的分析, 人文研究, 183, 131-153, 2014.
- 9) IISE. ネット世論の構造と社会的背景, [https://www.i-ise.com/jp/column/hiroba/2016/20161028\\_02.html](https://www.i-ise.com/jp/column/hiroba/2016/20161028_02.html), 2016. (accessed 2019-10-27)

The relationship between sports news and online comments  
—The case of pitch limits in high school baseball—

Yoh KOHNO

Department of Health and Sports Science,  
Faculty of Health and Welfare Science,  
Fukuyama Heisei University

Abstract

The objective of this study was to reveal the impact of news article content on online comments in sports news. For this study, the chosen topic was the discussion of introducing pitch limits to high school baseball, examining whether a news article supporting or criticising pitch limits has an impact on the comments of approval/disapproval for a pitch limit.

In this study, news stories that mentioned pitch limits were collected from the *Sports Navi*, a comprehensive sports website. Depending on their content, the articles were classified as either 'positive' or 'neutral' toward pitch limits. The users' comments on the news articles were then collected and organised via coding between opinions that are for or against pitch limits. Thereafter, the frequency of the generated codes was calculated, performing a chi-square test to see if there was a difference in the frequency depending on whether the news was positive or neutral.

From the research results, nine codes that indicate approval or disapproval (e.g. 'approval:prevention of injury', 'disapproval: unfair') were created from comments related to pitch limits. Of these, it was revealed that the posting of comments that include codes such as 'disapproval: changes in play' and 'disapproval: unfair' was inhibited or incited depending on the content of the news article. The rate of the posting of comments that include codes other than these was unaffected by content of the article.

KEY WORDS : Sports news, Online comments, Pitch limits